

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 合澤 浩之

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、  
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
商学入門	専門教育科目（現代社会学科）	1～4年	
マーケティング論Ⅰ	専門教育科目（現代社会学科）	2～4年	
中小企業論	専門教育科目（現代社会学科）	2～4年	
導入ゼミナールⅠ	専門教育科目（現代社会学科）	2年	
専門ゼミナールⅠ	専門教育科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門教育科目（現代社会学科）	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
マーケティング入門	専門教育科目（現代社会学科）	1～4年	
マーケティング論Ⅱ	専門教育科目（現代社会学科）	2～4年	
サービスマーケティング	専門教育科目（現代社会学科）	3～4年	
業界研究	専門教育科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1年	
専門ゼミナールⅡ	専門教育科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門教育科目（現代社会学科）	4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

企業での長い実務経験がある教員として、実践的職業人の育成に重点を置いています。

ディプロマ・ポリシーとの関連では、講義科目では、DP1-2：経済・経営の分野での専門的な知識を修得している、修得した専門的知識を活用して、様々な社会の現象を説明したり、問題点を指摘できる、ゼミナールでは、DP4-1：新たな社会の課題を発見し解決するための考察力、問題解決力を修得している、社会の課題を論理的に分析し課題を引き起こしている原因を究明することができる、を目標に教育を実践しています。実際の企業の事例を使った演習、個人研究、グループ研究などを通じて、主体的かつ実践的な学びを重視しています。卒業時に学生が自分の能力の向上を実感できること、自信を持って社会人生活をスタートできること、を最終目標に掲げています。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 朝西知徳

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

### 【前期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
健康スポーツ論	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
コーチング論	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
専門スポーツC	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1年	
専門ゼミナールⅠ	専門教育科目	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門教育科目	4年	

### 【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツ実習B	基盤教育科目	1～4年	

### 【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツ心理学	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
専門スポーツD	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1年	
専門ゼミナールⅡ	専門教育科目	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門教育科目	4年	

### 【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツ実習B	基盤教育科目	1～4年	

## 2. 理念

私が主に担当するスポーツコースの学生は、高校までスポーツを中心に生活していた者が多く、学習習慣の身につけていない場合がほとんどです。よって、入学時は90分間の授業に集中して臨むことが困難な状況です。

授業では、遅刻・飲食・居眠り・私語・不必要なスマートフォンの使用を禁じ、学生が授業に集中できる環境づくりを目指しています。また、新聞記事・小説・随筆・評論・映画（DVD）等の教材を用いて、学生が興味を引く内容を多く提供するとともに思考する時間を増やし、学生が卒業後に常識ある立派な社会人となってもらえるよう努力しています。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、「スポーツ心理学」「健康スポーツ論」などの専門教育科目において、DP1-2「スポーツ分野での専門的な知識の修得」に力を注いでいます。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

## 3. 方法

教育方針 1

工夫①：

工夫②：

教育方針 2

工夫①：

工夫②：

教育方針 3

工夫①：

工夫②：

## 4. 成果と課題、今後の計画

【成果】

【課題と今後の展望】

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 池田 玲子

作成日 2024年9月26日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

「\*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
経営学入門	専門教育科目	1～4年	
生産管理	専門教育科目	2～4年	
人的資源管理	専門教育科目	3～4年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習科目	3年～4年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習科目	4年～	
導入ゼミナール	専門演習科目	2年～4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
経営管理論	専門教育科目	2～4年	
経営組織論	専門教育科目	3～4年	
国際経営論	専門教育科目	3～4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
キャリアサポート演習2B	キャリア形成分野	1～4年	

## 2. 理念

- \*自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- \*建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

私の教室には、大学入学までに基礎的な学力を有していない学生が大半を占めている。「スポーツ等の逃げ道の存在」「重篤ではないが継続的な心身の疾病と治療」「祖父母の介護負担やきょうだい児」「家計の負担者」等との両立が可能な近隣の大学として選ばれている側面があるからである。加えて、2割程度が日本語初級者（N2未取得）の留学生であり、しかもその基礎学力（世界史・数学等）は不明である。これらの現実から、①講義で「今、ここ」で学習することを重視している。「今、ここ」で、「学習プロセス」の適切さを確認・指導している。課題設定が適切で、目標が達成されていない（＝入学時の学力）のであれば、問題は学習プロセスにある。これを支援するには「今、ここ」である必要がある。②学習の成果を学生が自分自身で評価することで、学生は「学習」へのドライブを育成できる。これが「自律的」な学力形成への第一歩と考えている。③講義内容を通じて、「感性」を尊重しつつも、「合理的」「論理的」「倫理的」な思考力の形成を目標としている。これらは全学的ディプロマ・ポリシーとは、DP3-2 DP2-1 で関連する。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

### 3. 方法

\* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

\* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

#### 記載例)

##### 教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

##### 教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

##### 教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

### 4. 成果と課題、今後の計画

\* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

\* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

\* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

\* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

**【成果】**

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

\* 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

**【添付資料】**

- \* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- \* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 日向 浩幸

作成日 2024年9月29日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、  
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

教育、研究、大学運営を通じて社会に貢献します。学習の個人差や学生のレベルに合わせた授業を行います。学会参加や発表、学会誌や専門書の執筆、学会の役員の仕事をします。現代社会学科長と各種学内委員会などの役割を果たします。大学間の連携協力による教育・研究・社会貢献機能の充実・強化を図ります。

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
社会と経営	基盤教育科目	1～4年	
経営戦略論Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学間連携講座 A	学外研修	1～4年	関空・泉州・南大阪地域学

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
経営哲学	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
経営戦略論Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
導入ゼミナールⅡ	専門演習	2年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習	4年	
キャリアサポート演習 A1	キャリア形成	1～4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

理論と実践の連結を促す教育を行います。「何ができるようになるのか」の観点で整理し、その育成のために「何を学ぶのか」、その内容を「どのように学ぶか」を計画的に実践し、「何が見についたか」を評価で見取り、さらに改善を図っていくことが大切です。つまり、「何ができるようになるのか」という目指す資質・能力の策定に始まり、内容の選定を行い、方法により実践し、その効果を検証し、授業の工夫・改善を重ねます。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、大学間連携講座 A は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の社会人基礎力の養成を図ることを目的とし、企画力・プレゼンテーション力・チームワーク力を伸ばす貴重な機会となっており、DP4-1（課題解決力）「学内外の能動的学修経験を通して、課題を発見する力、課題解決のために必要な情報を収集し分析する力、課題解決に向けた行動力を身につけている」の育成、その他の科目では DP4-2（生涯学習力）「多様な学修経験を総合し、自らのキャリアをデザインする力、生涯にわたって主体的に学び続ける創造的思考力を有している」の育成に力点を置いています。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 森本和義

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

「\*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- \* ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- \* 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。  
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- \* 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
商業簿記 I	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 1 Q
商業簿記 II	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 2 Q
大学入門ゼミナール I	専門科目（現代社会学科）	1 年	
専門ゼミナール I	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナール III	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
簿記入門	専門科目（現代社会学科）	1～4 年	
管理会計 I	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	第 3 Q
管理会計 II	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	第 4 Q
導入ゼミナール II	専門科目（現代社会学科）	2 年	
専門ゼミナール II	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナール IV	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

- \* 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- \* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

羽衣国際大学の建学の精神、すなわち「愛真教育」が、私の教育の基本理念であります。学生諸君には、真理の探究と他者への愛を融合させた愛真精神を理解し、修得してほしいと考えています。

現代社会学科のディプロマ・ポリシーDP2-1（汎用的能力）に明記されていますが、簿記・会計学の学修を通じて、現代社会で実践的職業人として活躍するための論理的思考力や数量的スキルを修得してほしいと考えています。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、DP4-1（課題解決力）「課題を発見する力、課題解決のために必要な情報を収集し分析する力、課題解決に向けた行動力」の育成に教育上の力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

## 3. 方法

- \* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- \* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

### 教育方針 1

工夫①：

工夫②：

### 教育方針 2

工夫①：

工夫②：

### 教育方針 3

工夫①：

工夫②：

## 4. 成果と課題、今後の計画

- \* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- \* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- \* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- \* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

**【成果】**

○

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

○

\* 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

**【添付資料】**

\* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

\* 電子データの添付は不要ですが、関連URLがある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 \*\*\*学部

\*\*\*学科

氏名 ○○○○

作成日 2024年9月○日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、  
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- 責務（何を行っているか） 担当科目など
- 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学部等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

「\*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例）

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
経済学Ⅱ	基盤教育科目	2～4年	
生活と経済	基盤教育科目	1～4年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
現代社会学特別講義C	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1～4年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
生活と経済	基盤教育科目	1～4年	
経済学Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
経済学入門	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
地域開発論A	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
導入ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

--

5～10行以内でご記載ください

進学率の上昇によるいわゆる「ユニバーサル化」する高等教育を前提に、中等教育と接続しつつ社会との連携を意識した大学教育を行うべきものと考えている。しかも本学は開学以来、共生社会の実現に向け国際性を一つの特色にしており、留学生も多数在籍している。他方入試の形態も年々変化している。したがって在籍学生のバックグラウンドや学習歴も多様なものとなっている。

このように多様化する学生を対象に、ヨコ軸として年次配当等時系列を用い、タテ軸としてより高度で専門化した内容を意識して教育内容を組み立てている。例えば経済学関連科目に関して、初年次には「経済学入門」「生活と経済」といった基礎的科目を配置し、2年次以降に「経済学Ⅰ」（ミクロ）「経済学Ⅱ」（マクロ）といった応用的科目を配置することで、DP1「知識・理解」が円滑に充足されるよう配慮している。またゼミナール科目も、学年進行に伴いDP2「汎用的能力」DP3「態度・志向性」DP4「統合的な学修経験と創造的思考力」の各要素が充足、深化するよう組み立てている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

### 3. 方法

- \* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- \* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

#### 記載例)

##### 教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

- 工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。
- 工夫②：・・・

##### 教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

- 工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。
- 工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

##### 教育方針 3 学習のアウトカムを出す

- 工夫①：・・・
- 工夫②：・・・

### 4. 成果と課題、今後の計画

- \* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- \* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につ

ながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

- \* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- \* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

**【成果】**

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- \* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

**【添付資料】**

- \* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- \* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 岡崎 拓

作成日 2024年9月27日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

「\*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- \* ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- \* 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。  
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- \* 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
日本経済入門	専門科目（現代社会学科）	1～4 年	
経済学 I	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
企業経済学	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
財政学	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
導入ゼミナール I	専門科目（現代社会学科）	2 年	
専門ゼミナール I	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナール III	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
経済学 II	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
ヨーロッパ・アメリカ 経済論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	
公共経済学	専門科目（現代社会学科）	3～4 年	
大学入門ゼミナール II	専門科目（現代社会学科）	1 年	
専門ゼミナール II	専門科目（現代社会学科）	3 年	
専門ゼミナール IV	専門科目（現代社会学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

- \* 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- \* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

社会・経済動向を踏まえた経済・ビジネス教育を目指しております。経済学、経営学理論の理論の教授、理解促進と並行し、授業内で時事問題、進行中の経済事象、グローバル経済における具体的諸問題を取り上げ、理論と現実世界とを結びつけ実学意識の醸成を行います。

また方法論として、積極的に映像資料、web資料を活用し、資料収集の方法も享受するとともに、動画を用いた反転授業によるデジタル化、アクティブ・ラーニング実施にも取り組みます。

ゼミなどでは、各学生の習熟度に合わせた指導と、モチベーション向上を意識したコミュニケーション、スキルトレーニングを重視します。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

## 3. 方法

- \* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- \* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

## 4. 成果と課題、今後の計画

- \* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- \* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- \* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- \* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

**【成果】**

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- \* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

**【添付資料】**

- \* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- \* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 喜多 努

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神「『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、  
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

令和6(2024)年度の担当科目をご記載ください(科目名称、科目分野、配当学年)。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツリーダー論Ⅰ	専門科目(現代社会学科)	3年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習(現代社会学科)	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習(現代社会学科)	4年	
導入ゼミナールⅠ	専門演習(現代社会学科)	2年	
専門スポーツA	専門科目(現代社会学科)	2年	
スポーツ実習B	教養分野	1年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スポーツリーダー論Ⅱ	専門科目(現代社会学科)	3年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習(現代社会学科)	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習(現代社会学科)	4年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1年	
専門スポーツB	専門科目(現代社会学科)	2年	
スポーツ実習B	教養分野	1年	
トレーニング論	専門科目(現代社会学科)	3年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

- \* 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- \* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

様々な学生たちがいますが、学びに対する意欲や成功体験に乏しく、また友人や仲間（時には家族）からの支援や会話が少なく、普段の交流にも躓きがある学生が増えているように感じます。まずは知り合い・友人を作り、大学での生活が楽しく、学びが自分の興味・関心を深める場であることを感じて欲しいです。授業においては興味のある分野から社会的な関心を持ち、深く調べたりしながら考察やディスカッションに繋げていけるようにし、自身での学びを増やせるように進めています。

卒業後の進路選択についても、まず自身で調べ、先輩や担当者などからの情報を元に必要となる知識や能力を学び計画を立てて挑戦すること。また社会人としてのマナーについても説明し、就職活動を進めていく前に自己管理能力の向上についても指導し、全学的ディプロマ・ポリシー・DP3-2（学修習慣）「自己を管理する力を身につけ、自らの立てた目標に向かって計画的、持続的に学修する習慣」の育成につながるよう指導を進めています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

## 3. 方法

- \* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- \* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

### 記載例)

#### 教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

- 工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。
- 工夫②：・・・

#### 教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

- 工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。
- 工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

#### 教育方針 3 学習のアウトカムを出す

- 工夫①：・・・
- 工夫②：・・・

## 4. 成果と課題、今後の計画

- \* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- \* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- \* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- \* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

**【成果】**

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- \* 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

**【添付資料】**

- \* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- \* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 田淵宗孝

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

「\*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
Communicative English IA	専門科目	1～4年	第1Q
専門英語II	専門科目	2～4年	第2Q
地域研究A	専門科目	2～4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
Communicative English IIB	専門科目	2～4年	第3Q
専門英語IV	専門科目（現代社会学科）	3～4年	第4Q
多文化共生論	専門科目	2～4年	
現代社会学特別講義	専門科目	2～4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

インターネットで情報入手が容易になった世代の学生にあって、それは必ずしも知識の向上に結び付いていないのが現状である。正しい情報を正しく分析・解釈するためには、それなりの訓練が必要であるが、そうした作業自体を厭い、表面的な情報を鵜呑みにしてしまう傾向をいかにして克服させるかを、本学における教育の目的としている。

現代社会学科のディプロマ・ポリシーとの関係では、語学科目については DP2-1 における「コミュニケーション能力」の向上を、そして講義系科目においては DP1-1「現代社会の課題を理解するための基本的な知識」および DP4-1 における「新たな社会の課題を発見し解決するための考察力」の育成を意識し、授業の組み立てを行っている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

## 3. 方法

- \* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- \* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

### 記載例)

#### 教育方針 1 時間を守ること (社会人基礎力)

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

#### 教育方針 2 自宅外学習習慣 (予復習) を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

#### 教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

## 4. 成果と課題、今後の計画

- \* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- \* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- \* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- \* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

### 記載例)

**【成果】**

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- . . . . .

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- . . . . .
- . . . . .

\* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

**【添付資料】**

- \* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- \* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 中島 智

作成日 2024年9月30日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

私は地域文化政策を専攻し、その視点に立って観光学に関わる科目を担当するとともに、本学と包括連携協定を結んでいる和歌山県湯浅町との域学連携活動にも関わり、地域に根ざした観光教育に従事している。

令和6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等をご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光学入門	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
国際観光論	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
地域観光論Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
観光文化論Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
導入ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	2年	
専門ゼミナールⅠ	専門科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（現代社会学科）	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光資源論	専門科目（現代社会学科）	1～4年	
観光文化論Ⅱ	専門科目（現代社会学科）	3～4年	
地域観光論Ⅰ	専門科目（現代社会学科）	2～4年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1年	再履修生を含む
専門ゼミナールⅡ	専門科目（現代社会学科）	3年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（現代社会学科）	4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

先行きが不透明な現代社会にあって、自分で課題を見つけ、問いを立て、答えを導き出すことが求められています。そのためには、自分で情報を収集し、それらを検証しながら新たな知識を生み出す能力が重要になります。観光学の学びにおいては、すでに体系化された知識を習得することはもちろん必要ですが、観光学自体が比較的若い学際領域の学問であることもあり、皆で問いを共有しつつ学んでいくという授業を心がけています。

現代社会学科のディプロマ・ポリシーとの関係では、講義系の専門科目の力点は DP1-2 に対応し、観光分野での「専門的な知識の修得」とし、またゼミナールのそれは DP3-1「主体的に行動しながら自己管理ができ、チームワークを重視し、社会で信頼され活躍できる人間力とリーダーシップを有している」に対応し、自ら考えて行動・協働できる力においています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

## 3. 方法

\* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

\* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

### 記載例)

#### 教育方針 1 時間を守ること (社会人基礎力)

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

#### 教育方針 2 自宅外学習習慣 (予復習) を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

#### 教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

## 4. 成果と課題、今後の計画

\* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

\* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

\* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

\* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

**【成果】**

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- . . . . .

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- . . . . .
- . . . . .

\* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

**【添付資料】**

- \* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- \* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所属 現代社会学部

現代社会学科

氏名 古谷昌重

作成日 2024年9月27日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。  
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

## 1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

## 2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

## 3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

## 4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

## 1. 責務

「\*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- \* ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- \* 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。  
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- \* 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光地理 I（国内）	専門教育科目（観光分野）	1～4 年	
観光資格研究 I	専門教育科目（観光分野）	2～4 年	第 1 Q
旅行会社実務 I	専門教育科目（観光分野）	1～4 年	第 2 Q
観光資格研究 II	専門教育科目（観光分野）	2～4 年	
大学入門ゼミナール I	基盤教育科目（大学導入分野）	1 年	
専門ゼミナール I	専門教育科目（専門演習分野）	3 年	
専門ゼミナール III	専門教育科目（専門演習分野）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
観光地理 II（海外）	専門教育科目（観光分野）	2～4 年	
旅行会社実務 II	専門教育科目（観光分野）	3 年	
導入ゼミナール II	専門教育科目（専門演習分野）	2 年	
専門ゼミナール II	専門教育科目（専門演習分野）	3 年	
専門ゼミナール IV	専門教育科目（専門演習分野）	4 年	
プロジェクト演習	共通専門科目（共通専門①）	1～4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

## 2. 理念

- \* 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- \* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

大学への進学は、学生にとって人生の大きな転機であり、大学での学びが自身の興味・関心を深め、友人や地域、社会との関わりを通じて互いに学び合う貴重な場であることに気づいてもらいたいと考えています。そのため、自己肯定感と自信を持ってもらえるような授業作りを心がけています。また、特に専門科目においては、学生が自ら調べ、考え、まとめ、発表し、その成果を振り返るプロセスを経験できるような教育を目指しています。このような自律的な学びの体験を通して、学生が社会人としての責任を自覚し、社会に貢献できる人材へと成長することを期待しています。これらの理念に基づき、学生が学問的な知識だけでなく、人間性や健康面でのバランスを重視し、地域や国際社会で活躍できるような総合的な能力を養うことを目指しています。国際的な視野を持ち、他者と協調しながら社会に貢献できる人材の育成を重視しています。（特に DP1-1、DP3-1～3、DP4-1 に該当）

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

## 3. 方法

- \* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- \* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

### 教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

- 工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。
- 工夫②：・・・

### 教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

- 工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。
- 工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

### 教育方針 3 学習のアウトカムの出す

- 工夫①：・・・
- 工夫②：・・・

## 4. 成果と課題、今後の計画

- \* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- \* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- \* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- \* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

**【成果】**

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

**【課題と今後の展望】** ※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- \* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

**【添付資料】**

- \* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- \* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

# 羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学  
所属 現代社会学部  
現代社会学科  
氏名 宮竹 愛子  
作成日 2024年9月29日

## 1. 責務

令和6(2024)年度の担当科目			
【前期担当科目】			
科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
専門ゼミナールⅢ	専門演習分野	4年	
国際文化研究A	国際英語分野	2～4年	
専門英語Ⅰ	国際英語分野	2～4年	
導入ゼミナールⅠ	専門演習分野	2年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習分野	3年	
Communicative EnglishⅡA	国際英語分野	2～4年	
現代社会学特別講義A	専門演習分野/ 国際英語分野	2～4年	
【後期担当科目】			
科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
Communicative EnglishⅠB	国際英語分野	1～4年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤・大学導入分野	2～4年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習分野	4年	
異文化コミュニケーション入門	国際英語分野	1～4年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習分野	3年	
専門英語Ⅲ	国際英語分野	3～4年	

## 2. 理念

学生一人ひとりが「かけがえのない存在」として、多角的でユニークな視点で物事を考え、社会に存在する問題や課題にみずから積極的に取り組めることを教育目標として掲げている。そのために、授業ではアクティブラーニングを採り入れ、かつ反転授業が有効になるような指導をしている。授業では、学生が楽しみながら問題意識を掲げ学習を継続できるよう、講義で取り扱うテーマを工夫している。現代社会に基づく身近な内容が主であり、近年はSDGsに関連する内容が多い。

すべての講義において、「チームワーク」や「リーダーシップ」を養うことを目標にすることで、卒業後は「実践的な職業人」として「主体的に行動」し、「問題解決力」「創造的思考力」を修得できる Only Onesを育てることを目指している。